

2019 連続企画

日本の国際化に中小企業はどう対応するのか？

国際情勢の俯瞰から 外国人労働者との 共生社会を考える

東郷 育子氏 国際政治研究者

広島市立大学広島平和研究所講師
慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員

社会人経験を経て、東京大学大学院法学政治学修士課程進学、ハーバード大学大学院政治学部留学。

入管法改正施行を踏まえて、日本はこれからどのように外国人労働者を受入れて如何に共に歩むのか。

ケーススタディとして同じ少子高齢化、人口減少問題を抱えるドイツの事例、アジアで日本同様に外国人労働者を受け入れている韓国の事例、などを比較、検証し日本における現行制度の問題点と展望を語っていただく。

2019 連続企画：日本では、今年はラグビーワールドカップ、来年2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本への来日外客数は2018年3119万人で、2013年の1036万人からこの5年で約3倍に増加しています。今後、数年で更に増加が見込まれ、政府が目標とする年間4000万人は早晩達成される見通しです。そこで、当部会では、今年、「日本の国際化に中小企業はどう対応するのか？」をテーマに、様々な角度から、日本と中小企業をめぐる国際化の論点を、取り上げ議論を行うことにしました。



- 日時：8月5日(月) 18:30~20:30
- 会場：東京中小企業家同友会会議室
千代田区九段南 4-17-16 市ヶ谷KTビル 3階
- 参加費：2,000円、非会員3,000円
(終了後、近隣店舗にて実費懇親会)
- 問合せ先：東京同友会事務局担当米田Tel.03-3261-7201
- お申込み：下記ご記入の上ご返信 FAX 03-3261-7202



氏名： _____ 御社名： _____ TEL： _____ 支部： _____